

石油製品の販売を通じて地域住民の財産と生命を守り抜き、社会的責任を果たす。そのために事業を継続。

背景・課題

- 東日本大震災時には、停電により手回し給油で燃料を供給し、住民のライフラインを守ったが、災害時における課題は多く残った。歴史的に蔵王山は噴火を繰り返しており、災害時の備えが課題。
- これまで地域灯油配送を行っていた小規模SSが、設備の老朽化や経営者の高齢化、あるいは後継者難などの理由により配送困難に。点在するそれら地域をカバーするために、同社は配送エリアを拡大。
- 地域住民の高齢化、過疎化は進行し、交通手段や買い物に困る地域住民の数は年々増加。

取組内容及び効果

【状況が変わるきっかけ・気づき】

- 東日本大震災時に被災地では、被災状況の把握や輸送に手間取り、石油製品が不足。給油を求める人々が連日列を作る中、停電により手回し給油で供給を続けた。緊急車両や病院への給油も人命救助、捜索のため必要不可欠であった。
- 石油製品の安定供給が人命を守る最後の砦である以上、災害時に住民の命と財産を守ることこそが地域貢献と認識。

【地域のニーズ・社会的課題解決の秘訣①】<災害時の安定供給体制を構築>

- 灯油・軽油・重油の石油備蓄タンクを新設。既存SSの地下タンクの増設による備蓄力向上、自家発電装置、可搬式計量機の配備で災害対応力を増強し、災害時に安定供給が可能な体制へ。

【地域のニーズ・社会的課題解決の秘訣②】<地域密着>

- 蔵王SSを地域のエネルギーコミュニティとして捉え地域密着度を強化。
- 灯油配送時の御用聞きはもとより、SS内で日用品の販売も。

【地域のニーズ・社会的課題解決の秘訣の定量的・波及的效果】

- 災害時にライフラインを守るためには、常日頃の取引も大切にしてほしいということが、徐々に顧客に浸透。街の大型店に行っていた顧客が回帰。
- 配送エリアの拡大するとともに、積極的な営業活動を展開し、地元企業などへの配送も新規に受注、販売量は増加。
- 油外売上も飛躍的に改善し、従来約の倍。街道沿いの大型店に流れていた、冬のタイヤ交換、洗車、カー用品の購入顧客の取り込みに成功。



灯油・軽油・重油の石油備蓄タンク



SS内での日用品の販売

今後の展望

- 在庫量が多いため、原油価格や為替に敏感に対応して、収益性の安定・向上につなげることが今後の課題。

会社情報	会社名	丸山 (株)
	運営SS数	8 SS (フル: 1SS, セルフ: 7 SS)
	ガソリンの月販ごとのSS数	月販120~400kl (8 SS)
	系列 (主なマーク)	JX、昭和シェル石油
	ガソリン卸先数	0 社、0 SS
SS以外の兼業事業概要	LPガス、自動車用品、車検、車両保険、不動産、食肉加工、飼料・肥料など	

取組を行っている店舗情報	店名	蔵王SS
	所在地	宮城県刈田郡蔵王町大字円田字桜下13-5
	立地特性	郊外/街道立地
	営業時間	7:00~20:00
	従業員数	6名 (社員: 4名、アルバイト: 2名)
	運営形態	セルフ・フル併用
	敷地面積	1,100坪
燃料油販売数量	400~500 kl/月	